

2024年5月14日  
南海電気鉄道株式会社

## 2024年度鉄道設備投資計画について

南海電気鉄道株式会社（社長：岡嶋 信行）では、「南海グループ経営ビジョン2027」に掲げる「良質で親しまれる交通サービスの提供」の実現を目指し、中期経営計画「共創140計画」（2022年度～2024年度）において「公共交通事業の持続可能な経営」に注力しています。

2024年度は、「鉄道事業のサステナビリティを高める安全・安定的な輸送基盤の強化」や、バリアフリー対策等の「社会的要請に応えるサービスの高度化」を推進し、社会に必要とされる価値を提供していくため、総額約140億円の設備投資を計画しています。

### <2024年度 主な設備投資計画>

#### 1. 鉄道事業のサステナビリティを高める安全・安定的な輸送基盤の強化

- ①中百舌鳥駅ホームドア設置
- ②車内防犯カメラ設置
- ③鉄道研修センターの教育機器の更新
- ④駅ホーム施設更新
- ⑤連続立体交差事業
- ⑥変電設備の更新
- ⑦高野線への防護無線システムの導入
- ⑧耐震補強工事
- ⑨防災工事

#### 2. 社会的要請に応えるサービスの高度化

- (1)車両新造・更新
- (2)駅舎リニューアル・バリアフリー化推進
- (3)駅トイレリニューアルプロジェクト
- (4)鉄道 DX
  - ①自動運転
  - ②キャッシュレス化の推進
  - ③保守業務のデジタル化

2024年度設備投資計画の詳細は別紙のとおりです。

【別紙】

2024年度設備投資計画の詳細

1. 鉄道事業のサステナビリティを高める安全・安定的な輸送基盤の強化

①中百舌鳥駅ホームドア設置

駅ホームのさらなる安全性向上のため、2024年度には中百舌鳥駅3番線ホームに大開口ホーム柵を設置します。

(2023年度実績)

中百舌鳥駅4番線ホームに大開口ホーム柵を設置し、2024年3月から運用を開始しました。



中百舌鳥駅4番線ホームドア

②車内防犯カメラ設置

列車内のセキュリティ向上と犯罪抑制のため、2024年度には、9000系、1000系車両計108両に設置予定です。これにより全車両698両(ケーブルカー含む)のうち、33%の車両(232両)に設置が完了します。2028年度末までに全車両での運用開始を目指します。

(2023年度実績)

8300系車両全車両(計124両)で運用を開始しました。



車内に設置している防犯カメラ

### ③鉄道研修センターの教育機器の更新

鉄道研修センターは、駅係員・乗務員(運転士・車掌)の養成や知識・技能向上の教育を実施する施設です。運転を疑似体験できる「運転シミュレーター」を更新することにより、運転士養成の技能向上を高めていきます。

※2025年3月に設置を完了し、2025年度の運転士養成から使用を開始する予定です。今回の更新内容は、実写映像からCGへの変更です。CGにすることにより、多様なシチュエーションを想定した教育を行っていきます。

(2023年度実績)

触車事故防止訓練装置(VR)とデジタルサイネージ(過去の事故事例閲覧)を導入しました。

※触車事故防止訓練装置:列車監視員や作業責任者の、線路内作業での触車事故を防止する目的で導入した装置。



VRで二人が協力した触車事故防止訓練も可能

### ④駅ホーム施設更新

駅の安全性向上を目指し、ホーム<sup>うわや</sup>上家の天井脱落防止対策を進めています。

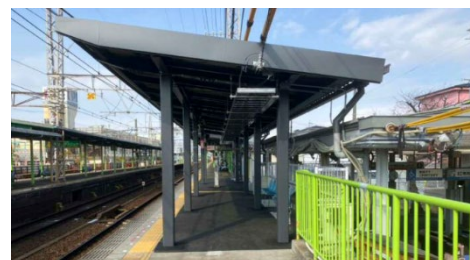
2024年度の対象駅:新今宮駅、堺東駅、その他

(2023年度実績)

春木駅において、駅舎の木造上家を鋼製上家へリニューアルしました。あわせて、美装化による快適性の向上も目指し、新設した上家だけではなく、隣り合う階段の上家の塗装も行いました。さらに、盛土流出を防ぐためにホームの擁壁を新設。お客さま転落防止のため、ホームと駅舎との間のフェンスを更新しました。



春木駅 木造上家(リニューアル前)



春木駅 鋼製上家(リニューアル後)

## ⑤連続立体交差事業

### 【高石市内(南海本線・高師浜線)】

2024年4月6日に高師浜線を高架化し、鉄道による運行を再開しました。今後、高架下整備工事等を進めていきます。

### 【堺市内(南海本線)】

諏訪ノ森駅～浜寺公園駅間の一部区間(別線区間)での高架橋工事を施工中です。

### 【堺東連立(高野線)】

2022年3月に堺市にて都市計画事業認可を取得し、2023年10月に基本協定書を締結。引き続き堺市と協力しながら鉄道の詳細設計を進めていきます。

## ⑥変電設備の更新

列車や鉄道施設への安定した電力供給とリスク低減のため、変電設備の更新を行います。

## ⑦高野線への防護無線システムの導入

踏切に取り残された公衆を発見するなど緊急の際に、電波を発信して、付近の列車に対し直ちに緊急停止を指示する防護無線システムについて、高野線導入に向けた準備を進めていきます。なお、南海線には2009年に導入済みです。

## ⑧耐震補強工事

南海トラフ巨大地震などの今後発生が予測される大規模地震に備えて、駅舎や高架橋柱などの耐震補強を計画的に実施しており、2024年度は難波駅～新今宮駅、住ノ江駅～湊駅、貝塚駅～二色浜駅、泉佐野駅～羽倉崎駅、三日市町駅～美加の台駅の高架橋柱の耐震補強工事を行います。

(2023年度実績)

駅舎については、高師浜駅の耐震補強工事を実施しました。





高架橋柱については、難波駅～新今宮駅、粉浜駅～住ノ江駅、七道駅～石津川駅、和泉大宮駅～蛸地蔵駅、井原里駅～泉佐野駅、羽衣駅～伽羅橋駅で、耐震補強工事を実施しました。



難波駅～今宮戎駅間耐震補強工事



岸和田駅～蛸地蔵駅間耐震補強工事

## ⑨防災工事

### 【橋梁の洗掘<sup>せんくつ</sup>防止対策工事】

河川の過大な増水や急激な流れの変化により橋脚基礎部分の土砂が流され、橋脚が傾くことを防ぐため、計画的に洗掘防止対策工事を実施しています。2024年度は高野線紀ノ川橋梁1橋脚の洗掘防止対策工事を実施します。

### 【斜面防災工事】

豪雨等により斜面が崩壊することを防止するため、斜面補強工事を計画的に実施しています。2024年度は箱作駅～淡輪駅間で斜面補強工事を実施します。

### (2023年度実績)

2023年度は高野線紀ノ川橋梁1橋脚の洗掘防止対策を実施しました。  
これにより、当該橋梁で対策予定の4橋脚のうち2橋脚を実施しました。



高野線紀ノ川橋梁 P1橋脚(完了)



高野線紀ノ川橋梁 P2橋脚(施工中)

## 2. 社会的要請に応えるサービスの高度化

### (1) 車両新造・更新

「省エネルギー化」、「安全・サービスの向上」、「車両メンテナンスの向上」を目指して開発した「人と環境に優しい車両」である8300系車両を2024年度に12両新造します。加えて、1000系1編成6両について、床下機器の更新を実施します。

#### (2023年度実績)

8300系車両を8両新造しました。8300系車両は2015年度より導入をはじめ、2023年度末時点では南海線にて60両、高野線にて64両を運行しています。なお、8300系車両は、泉北高速鉄道の9300系車両とともに2023年度のグッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。



8300系車両



グッドデザイン賞受賞記念ポスター

### (2) 駅舎リニューアル・バリアフリー化推進

お客さまの利便性・快適性の向上を目指し、駅舎の美装化とバリアフリー化に取り組みます。2024年度には、難波駅、今宮戎駅、新今宮駅、紀見峠駅、紀伊清水駅、九度山駅で実施します。

#### 【難波駅】

- ・2階中央口(南海線側)の美装化
- ・2階中央口の階段段鼻明示、トイレ音声案内設置、階段2段手摺化及び点状ブロック JIS 化



美装化予定の難波駅2階中央口

#### 【今宮戎駅】

- ・外装美装化(2023年度未実施分)
- ・階段分離柵設置(中2階～ホーム階)及び2段手摺化、点状ブロック JIS 化

### 【新今宮駅】

- ・階段段鼻明示、トイレ前音声案内設置

### 【紀見峠駅、紀伊清水駅、九度山駅】

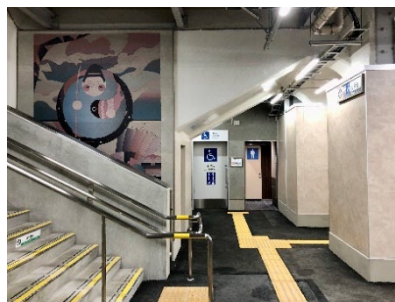
- ・内方線付き点状ブロック設置

(2023年度実績)

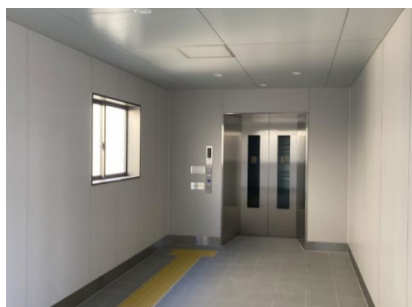
中百舌鳥駅、今宮戎駅、高師浜駅、伽羅橋駅で美装化やバリアフリー化を行いました。



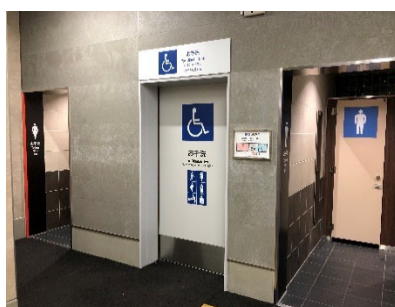
リニューアル後の中百舌鳥駅コンコース



今宮戎駅階段横デザインウォール



高師浜駅のエレベーター



今宮戎駅の多機能トイレ

### (3) 駅トイレリニューアルプロジェクト

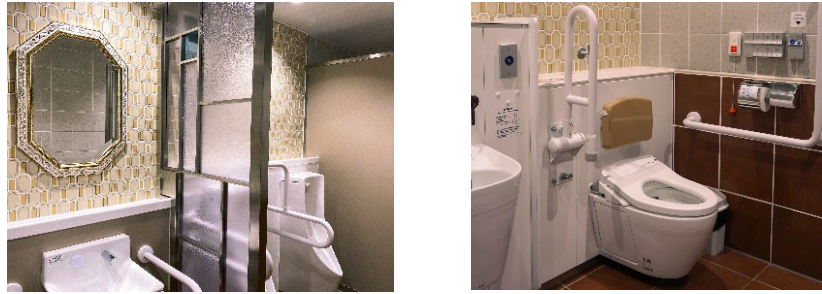
2016年度から駅トイレリニューアルプロジェクトを推進しており、2024年度は河内長野駅、白鷺駅、和歌山大学前駅、湊駅、萩ノ茶屋駅のトイレをリニューアルします。これにより、対象全91駅中の70駅のリニューアルが完了します。



トイレリニューアルプロジェクトのロゴマーク

(2023年度実績)

蛸地蔵駅、伽羅橋駅、高師浜駅、今宮戎駅、住吉大社駅、泉大津駅の6駅のトイレをリニューアル。



リニューアルした蛸地蔵駅のトイレ

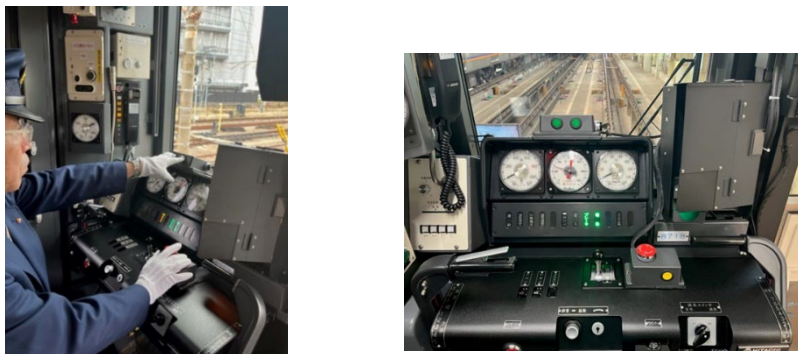
(4) 鉄道 DX

① 自動運転

高師浜線、和歌山港線への GOA2.5 自動運転導入を目指して、引き続き有識者による GOA2.5 自動運転検討委員会での安全性評価と和歌山港線での実証試験を推進していきます。

(2023年度実績)

2023年8月から和歌山港線において、運転士が乗務した状態での自動運転走行試験を開始しました。また、12月18日には実証試験について報道公開しました。



自動運転走行試験の様子と運転席



## ②キャッシュレス化の推進

「タッチ決済」「デジタルきっぷ」対応改札機について、2024年度も対象駅・改札口を拡大していきます。

(2023年度実績)

2023年4月より、南海グループの鉄道・バス(一部)・フェリーで、JCB/American Express/Diners Club/Discover の4ブランドのタッチ決済による交通利用の取扱いを開始。12月には急速に増加するインバウンドのお客さまのさらなる利便性向上を目的に、銀聯の取り扱いも開始しました。

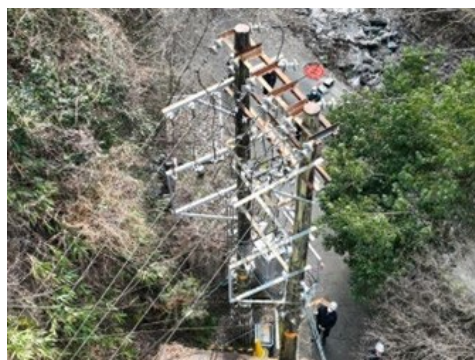


## ③保守業務のデジタル化

線路設備点検の効率化や、異常時における早期情報収集等を目的として、ドローンなどの必要な機器を増備します。また、保有する施設の管理の効率化を目的として、施設情報のデジタル化を図っていきます。

(2023年度実績)

- ・中百舌鳥電波塔、林間田園都市駅舎屋根、鋼索線電力設備、堺東変電所電力設備にて空撮点検を実施しました。
- ・上古沢駅周辺においてドローンを活用した、3D 測量を実施しました。



ドローンで空撮した鋼索線電力設備(左)、堺東変電所電力設備(右)